

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2017

課題番号：16K13215

研究課題名(和文) 富山大学附属図書館所蔵ヘルン文庫を活用したラフカディオ・ハーン研究体制の構築

研究課題名(英文) Organisation of research cooperation groupe on Lafcadio Hearn

研究代表者

中島 淑恵 (NAKAJIMA, Toshie)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：20293277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：富山大学附属図書館所蔵のラフカディオ・ハーン旧蔵書を研究資源として活用することを目的として遂行された本研究によって、ハーンがどのような読書経験を通じて自らの講義や創作活動を実践するに至ったのかを具体的に解明することができた。とりわけ、蔵書の各所に見られる書き込み調査の結果として、たとえばアメリカ時代の無署名の新聞のコラムが、蔵書からの引用であることが解明でき、ハーンのものと同定する根拠を示すことができた。また、ハーン作品には、『ギリシア詞華集』などの影響も色濃いことを具体的に論証することができた。さらには、ハーンが日本近代文学に及ぼした影響についても具体的に例証することができた。

研究成果の概要(英文)：This study, carried out with the objective of utilizing the book collection of Lafcadio Hearn of University of Toyama, as a research resource, shows what kind of reading experiences Hearn has taken to practice his lecture especially at Tokyo Imperial University and his creative activities such as Kwaidan. We were able to clarify concretely, in particular, as a result of the survey of his handwritings found in various parts of the collection a number of things which were not well clarified until today. For example, it was possible to clarify that a number of unsigned columns of newspaper were quotations from his book collection, and it was possible to show the basis for identifying them as those of Hearn. In addition, it was able to demonstrate concretely that Hearn's work has been strongly influenced not only by Japanese thoughts, but also by those of Greek anthology, for example. In addition, we could specifically illustrate the influence of Hearn on Japanese modern literature.

研究分野：比較文学

キーワード：ラフカディオ・ハーン 比較文学 書き込み調査 フランス文学 英米文学 フランス語圏文学 日本近代文学

### 1. 研究開始当初の背景

富山大学附属図書館には、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の旧蔵書2千余冊が収蔵されているが、これまで保管に主眼が置かれてきたきらいがあり、研究資源として十分に活用されてこなかった傾向がある。しかるに、これら蔵書が、ハーンの創作活動や東京帝国大学での講義に及ぼした影響は計り知れないものがあり、蔵書と創作、または講義との関係についてこれまでに十分に解明されてきたとは言い難いものがあった。そのうえ、ヘルン文庫の蔵書には至る所に主に鉛筆書きによる書き込みがあり、この書き込み調査もこれまで全くと言ってよいほど手が付けられてこなかった。さらには、従来のラフカディオ・ハーン研究は、個々の専門研究者が個別に研究を行うことが多かったように思われるが、それぞれの研究者が連携を深め、意見交換を行うことによってさらに研究の精度を高め、成果を共有しあうことができるのではないかと考えた。

### 2. 研究の目的

ラフカディオ・ハーンの旧蔵書(ヘルン文庫)を収蔵する富山大学の研究者が中心となって、同文庫の研究資源としての活用を目的に、蔵書の書き込み調査や、ハーンにおけるフランス文学の影響、ハーンが日本近代文学にもたらした影響など、これまで十分に研究されてきたとは言えない独創的な研究を推進し、アメリカを初めとする諸外国のハーン研究と日本で行われている八雲研究を連結し、ハーンの全体像に迫るような研究を目指す。また、ハーンゆかりの地である熊本および島根あるいは神戸や東京の研究者と連携して、ハーン研究の国内ネットワークを構築すると同時に、アメリカ、アイルランド、ギリシアなど、ハーンゆかりの地の研究者との協力体制を構築し、富山大学をしてハーン研究の一大拠点とする。

### 3. 研究の方法

平成28年度は、基礎作業として年間を通してヘルン文庫における書き込み調査と蔵書目録の点検と補遺を行うほか、各自が独自にハーン研究を進める。また、講義録の読解を通して、ハーンの教育と創作の関係について考察を行う。研究の成果は、国内外の学会等で発表し、専門研究者との意見交換を通して、考察を深める。また、第一線のラフカディオ・ハーン研究者を招聘して講演会や国際シンポジウムを開催して、国内外の研究者との連携を深める。このようにして得られた成果を、年度末には『ヘルン研究』第2号として取りまとめ、刊行し、研究会ホームページにて報告するほか、富山大学リポジトリに登録して広く世間に成果を公開する。

ヘルン文庫およびハーン研究関連文献は逐次補足が必要であり、とりわけハーンがニューオリンズ時代に記事を寄せていた新聞

(『アイテム』および『タイムズ・デモクラット』)については、そのマイクロフィルム等の購入を行う。また、可能な限りヘルン文庫蔵書のデジタルアーカイブ化に努める。

平成29年度も、基礎作業として年間を通してヘルン文庫における書き込み調査と蔵書目録の点検と補遺を行うほか、各自が独自にハーン研究を進める。また、講義録の読解を通して、ハーンの教育と創作の関係について考察を行う。さらに、第一線のラフカディオ・ハーン研究者を招聘して講演会や国際シンポジウムを行い、国内外の専門研究者との意見交換を通して、連携を深める。さらには、このようにして得られた成果を、年度末には『ヘルン研究』第3号として取りまとめ、刊行する。また、このような活動のすべては、研究会ホームページにて報告すると同時に、富山大学リポジトリに登録して研究の成果を広く世間に公開する。

これらの活動と並行して、ヘルン文庫およびハーン研究関連文献の逐次補足を行うと同時に、可能な範囲でヘルン文庫蔵書のデジタルアーカイブ化を行う。

### 4. 研究成果

平成28年度は、まず研究代表者中島が、ギリシア詞華集におけるハーンの書き込みについて国際比較文学会世界大会において発表を行った(2016年7月9日)。2016年9月17日富山大学において国際シンポジウム「ラフカディオ・ハーン研究の新たな試み ヨーロッパ・アメリカ・日本をつなぐもの」を開催。2017年2月11日・12日富山大学においてラフカディオ・ハーン研究シンポジウムを開催。内容は、基調講演として「多言語的なアメリカとハーン」西成彦および「ハーンの言語観と英語教育」西川盛雄、発表「ハーンのニューオリンズ時代における日および本との出会い 『日本の詩瞥見』をめぐって」中島淑恵、「ハーン『チタ』最後の島の記憶」アイルランドと日本の交点としてのアメリカ」結城史郎、「ことば、記憶、"Creolization" 前衛小説として読むハーンの『チタ』」難波江仁美「ハーンにおける「クレオール性」の再読解：イナ・セゼールを中心に」廣松勲、「ハーンにおける異質なものの表象」長岡真吾、「ハーン作品における『ひとりであること』について」池田志郎、「ハーンの『柔術』について」濱田明、「シンシナティ時代におけるハーンの新聞記事について」水野真理子、「ハーンの弟子達のボードレール」小谷瑛輔、「小学校・中学校国語教科書における小泉八雲作品の行方」西田谷洋。これに基づいて研究論集『ヘルン研究』第2号を刊行。この他、日本フランス語フランス文学会秋季大会において「ラフカディオ・ハーンとフランス」という題目でワークショップを行った(2016年10月23日)ほか、日本比較文学会関西支部大会にて、共同研究者小谷が「芥川龍之介「黒衣聖母」に見

られるボードレール受容」として発表を行い、また研究代表者中島が同会にて、「ハーン研究の新展開～ヘルン文庫の活用法～」としてワークショップを主宰(2016年11月12日甲南大学)。

平成29年度は前年度に引き続き、富山大学附属図書館所蔵ヘルン文庫の資料を中心にした書き込み調査を推進すると同時に、研究代表者及び研究分担者がそれぞれにラフカディオ・ハーンに関する個別研究を行い、各学会等で発表した。また、「ラフカディオ・ハーン国際研究シンポジウム」を開催し、学内外の外国人研究者を含む研究者を招聘して基調講演(小森陽一東京大学教授「二つの『心』 ハーンと漱石」、小泉凡島根県立大学短期大学教授で本研究の連携研究者「文化資源としての作家と文学」)の他、研究発表と意見交換を行い、その成果を「ヘルン研究」第3号として刊行した(研究代表者中島淑恵「ヘルン文庫書き込み調査報告『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの」、研究分担者西田谷洋「戦後高等学校国語教科書の中の小泉八雲・序説」、小谷瑛輔「文学教育の題材としての小泉八雲 富山大学の実践例をもとに」、結城史郎「ラフカディオ・ハーンの再話と日本人の文化的記憶の変容」、水野真理子「ハーンはアメリカでどう読まれたか『日本 一つの解明を中心に』」)。

今年度活動の結果、ラフカディオ・ハーンの文学的活動において、アメリカ時代、とりわけニューオリンズ時代を中心に書かれた、ジャーナリストから作家へと移行する時期の著作がのちの怪談作家としてのハーンにとって重要な転換点となったことが解明された。また、ハーン作品の日本国内における影響のみならず、アメリカにおいても後世に大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。さらには、従来仏教思想の反映とされていた無常観や輪廻転生のような世界観が、古代ギリシアやペルシアの思想の反映であることも蔵書の書き込み調査から実証的に証明できることとなった。さらに、日本の神話とギリシア神話の同源性やマルチニークの民話と他のクレオール民話の類似性にハーンが着目していたことも明らかになった。

また、これらの活動を通じて、とりわけハーンゆかりの地である島根、熊本、神戸、東京の専門研究者との研究協力体制が構築されることとなった。また、マルチニークやアメリカ、とりわけヴァンダービルト大学やヴァージニア大学などハーン関連資料を数多く有する海外の大学等との研究連携関係を構築する端緒ともなった。

##### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計17件)

中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』英語版の書き込みについて

セミとギリギリスに関する詩を中心に」『富山大学人文学部紀要』第69号、査読無、(2018年8月刊行予定)

中島淑恵「ラフカディオ・ハーンのニューオリンズ時代における日本との出会い「日本の詩瞥見」をめぐって」『富山大学人文学部紀要』第67号、査読無、(2017年8月)153～167頁。

中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』英語版の書き込みについて」『富山大学人文学部紀要』第68号、査読無、(2018年2月)155～170頁。

中島淑恵「ハーンは八雲をいつ知ったかヘルン文庫のフランス語本から伺えること」『へるん倶楽部』第15号、査読無、2017年6月、1～8頁。

「ヘルン文庫書き込み調査報告『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの」『ヘルン研究』第3号、査読無、2018年3月、110～127頁。

結城史郎「アイルランド文芸復興運動家たちとスティーヴン・ディーダラスの対立『ユリシーズ』第9挿話を中心に」、『富山大学人文学部紀要』第67号、査読無、2017年、115～26頁。

結城史郎「Irish History as a Nightmare and Utopian Fantasies in Ulysses」、『エール』第36号、査読有、2017年、28～45頁。

結城史郎「ラフカディオ・ハーン『チタ最後の島の記憶』を読む アイルランドと日本の交点としてのアメリカ」、『ヘルン研究』第2号、査読無、2017年、15～26頁。

西田谷洋「小学校・中学校国語教科書の中の小泉八雲・序説」、『ヘルン研究』第2号、査読無、2017年3月、54～64頁。

西田谷洋「作品の死後の生 "A Living God"の二つの国語教科書教材バージョン」、『へるん倶楽部』第15号、査読無、2017年6月、11～12頁。

西田谷洋「学校国語教科書の中の小泉八雲・序説」、『ヘルン研究』第3号、査読無、2018年3月、63～73頁。

小谷瑛輔「芥川龍之介「煙草」と切支丹物の出発 ラフカディオ・ハーン以降の日本のボードレール受容を視座として」、『ヘルン研究』第2号、査読無、2017年03月、44～54頁。

小谷瑛輔「芥川龍之介「黒衣聖母」に見られるボードレール受容」、『国語国文』86巻8号、査読有、2017年8月、1頁から16頁。

小谷瑛輔「文学教育の題材としての小泉八雲」、『ヘルン研究』第3号、査読無、2018年3月、74～77頁。

中島淑恵「ハーンとボードレール 米国ヴァンダービルト大学ハーン関連ファイルの調査から」、『へるん倶楽部』第14号、査読無、2016年6月、40～50頁。

中島淑恵「エレディアを読むハーン」『日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集』No. 40、査読有、2016年12月、93

～114頁。

中島淑恵「ラフカディオ・ハーンとシャルル・ボードレール ボードレールの4つの散文詩の英訳をめぐる」『富山大学人文学部紀要』第65号、2017年2月、203～219頁。

口頭発表

〔学会発表〕(計16件)

小谷瑛輔「芥川龍之介「黒衣聖母」に見られるボードレール受容」日本比較文学会第52回関西大会(甲南大学)2016年11月12日。

小谷瑛輔「ハーンの弟子達のボードレール

上田敏、北原白秋、木下空太郎、松浦一、芥川龍之介」ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)、2017年02月12日。

小谷瑛輔「文学教育の題材としての小泉八雲 富山大学の近年の実践例をもとに」ラフカディオ・ハーン国際シンポジウム(富山大学)2017年12月23日。

西田谷洋「小学校・中学校国語教科書における小泉八雲作品の行方」ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)2017年2月12日。

西田谷洋「戦後高等学校国語教科書の中の小泉八雲・序説」国際ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)2017年12月23日。

結城史郎「ハーン『チタ 最後の島の記憶』を読む アイルランドと日本の好転としてのアメリカ」ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)2017年2月11日。

結城史郎「ラフカディオ・ハーンの創作と文化的記憶 『和解』を中心に」ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム(富山大学)、2017年12月23日。

水野真理子「ハーンはアメリカでどう読まれたか 『日本 一つの解明』を中心に」ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム(富山大学)2017年12月24日。

水野真理子「シンシナティじだいにおけるハーンの新聞記事について」ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)2017年2月12日。

中島淑恵「ハーンのニューオリンズ時代における日本との出会い 『日本の詩瞥見』をめぐる」ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム(富山大学)2017年2月11日。

中島淑恵「ヘルン文庫書き込み調査報告 『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの」ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム(富山大学)2017年12月24日。

中島淑恵「伝承と文学の往還 ハイネ、ハーン、柳田を軸として」ハーンのニューオリンズ時代 文学者志望の新聞記者、ブッキッシュな自学者としての民俗学者のハーン」日本比較文学会第79回全国大会、ワークショップ(山形大学)2017年6月17日。

中島淑恵「19世紀文学とジャーナリズムー煽情的ジャーナリストとしてのハーンから

怪談作家としての小泉八雲への道程」『日本フランス語フランス文学会』秋季大会ワークショップ(名古屋大学)2017年10月29日。

中島淑恵「流血の惨事 「幽霊滝の伝説」と「耳なし芳一」から」国際シンポジウム「日本文学とヨーロッパ文学の交感」(富山大学)2018年2月9日。

中島淑恵「ブッキッシュなクレオール」国際シンポジウム「世界文学から見たフランス語圏カリブ海 ネグリチュードから群島の思考へ」(東京日仏会館)2018年3月25日。

Toshie NAKAJIMA, Lafcadio Hearn comme lecteur de José-Maria de Heredia l'affinité hellénique chez ces deux écrivains contemporains, International Congress of Comparative Literature, (ウィーン大学, 2016年7月27日。

〔図書〕(計2件)

水野真理子「ラフカディオ・ハーンはアメリカでどう読まれたか『日本 一つの解明』を中心に」河原典史・木下昭編『移民が紡ぐ日本 交錯する文化のはざままで』文理閣、2018年3月、16頁から36頁。

小谷瑛輔『小説とは何か? : 芥川龍之介を読む』ひつじ書房、2017年12月。

〔その他〕

ホームページ等

「富山大学ヘルン研究会」

<http://www3.u-toyama.ac.jp/hearn/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中島 淑恵 (NAKAJIMA Toshie)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：20293277

### (2) 研究分担者

小谷 瑛輔 (KOTANI Eisuke)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：10753618

結城 史郎 (YUKI Shiro)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：00757346

西田谷 洋 (NISHITAYA Hiroshi)

富山大学・人間発達科学部・教授

研究者番号：70378230

水野真理子 (MIZUNO Mariko)

富山大・大学院医学薬学研究部(医学)・准教授

研究者番号：40790922